

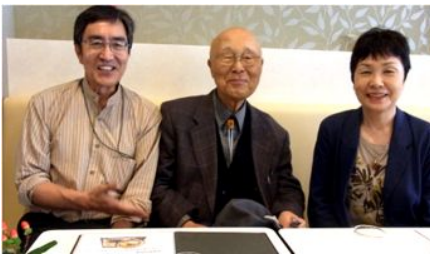
支部訪問 (5) 藤沢支部

弘報部 黒川 鈴谷

2015.4 記録

4月27日(月)に、藤沢支部をお訪ねしました。藤沢はいつも電車で素通りするだけで、降りたのは初めてです。少し早めに行ったので駅の周りを歩いてみました。

定刻1時が近づいたので、待ち合わせ場所の改札口付近に行ったのですが、何人もの人が居て、藤沢支部の和泉支部長さんがどの人か分かりません。多分あの人ではないかなと近寄って確かめたら、やはり正解でした。支部長さんの他にあと二人の方と一緒にお話を伺いました。以下がその時にお聞きした事の記録です。



左から、和泉・伊集院・小池の各氏

座談会 藤沢支部の現状を語る

出席者 和泉 清勝 (昭和51年卒)
伊集院兼重 (昭和27年卒)
小池 洋子 (昭和42年卒)

司会 弘報部 黒川 鈴谷 (昭和35年卒)

黒川 本日はお忙しい所をお集まり頂き、ありがとうございます。また伊集院先生のような大先輩にお出で頂きまして、恐縮しております。

ではさっそくお話を伺いたいと思いますが、実は藤沢はいつも電車で通過するばかりで、下車したのは初めてです。藤沢と聞いて私の頭に浮かぶのは江ノ島などの湘南海岸や、せいぜい藤沢駅周辺なのですが、地図で見ると海に接した部分よりも、内陸に入り込んだ部分の方が大きい細長い形をしていますね。

和泉 そうですね。東は横浜市の戸塚区や泉区に、また北は大和・綾瀬・海老名の各市に接しています。市の面積は約70平方キロ、人口は約42万人です。

黒川 藤沢市全体で公立小・中学校はどの位ありますか。

小池 はい、小学校が35校、中学校が19校、市立の特別支援学校が1校で、合計55校です。

黒川 地図で見ると、やはり海岸に近い方が学校が多いですね。

小池 辻堂の海岸一帯は、戦前・戦中は海軍の演習地だったようですね。戦後そこに学校を建てるということで、国から土地を譲り受けたそうです。

黒川 そうですね。辻堂海岸は昔は横須賀にある海軍の諸学校や海兵団の演習地として有名でした。そこを戦後に譲り受けたのですね。

小池 譲り受けた所に昭和37年頃まず市立の白浜養護学校を作りました。今の特別支援学校ですね。その後、小学校を作る計画はあったのですがすぐ作らなかつたら国の方から「小学校を作らないなら用地を返却せよ」という話があったそうです。そこで白浜養護の隣に急いで、高砂小を作りました。そのうちに辻堂



JR 藤沢駅改札口付近

団地が出来たら転入する児童がどんどん増えてきて、浜見小が作られたのです。

黒川 現在 55 校ある市立学校の職員数は分かりますか。

小池 小学校が 992 名、中学校が 572 名です。それから特別支援学校が 76 名で合計 1640 名になります。



相模湾上空より、江ノ島や藤沢市域を望む。

黒川 そのうち友松会の会員はどの位いますか。

小池 校内会員は約 160 名です。率で言うとだいたい 10%ですね。

黒川 国大卒の新人は何人入りましたか。

小池 今年は 7 人入りました。全部小学校です。去年は小 6、中 1 の 7 人でした。

黒川 印象としては、かなり新人が入っているなと思いますね。横浜などは幾つかの支部に分かれているので、支部によっては新人が来ない年もありますよ。

ところで藤沢支部の校内会員 160 名のうちで、管理職は何名くらいいるのですか。

和泉 今年度は小学校が校長 10 名、教頭 12 名です。中学校は校長が 6 名で教頭が 2 名います。あとは特別支援校の教頭が会員です。

黒川 話はまた別のことに移りますが、団地などが盛んに出来た頃に作られた学校の現状はどうなのですか。横浜などでは児童生徒数の減少による、学校の統廃合問題が出てきています。藤沢でも場所によって違うのでしょうか。

小池 藤沢では児童生徒数は減っていません。少し増えている位です。

黒川 えっ、そうなのですか。何か理由があるのですか。

小池 先日テレビでもやっていましたが、藤沢市は日本一住みやすい町なのだそうです。だから人口が減少せず少し増える位なのです。

黒川 住みやすいというのは、具体的に言うとどんなことなのですか。

小池 前の市長がやったことですが、藤沢では 15 歳になるまで子どもの医療費は無料なのです。

黒川 なるほど、そういうことですか。子どもの医療費はかかりますからね。

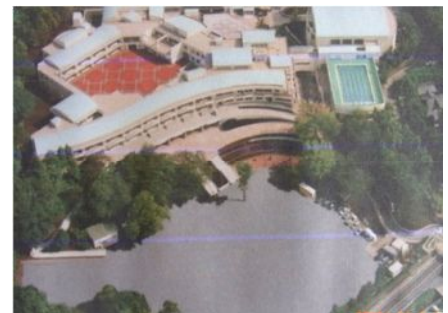
小池 ですから市内の子どもの数も多く、従って一校あたりの児童数も多いのです。市内に児童数が千人を超えるような学校も幾つかありますよ。いま六会小の児童数が藤沢では一番多いでしょう。

黒川 それらの学校の児童数はどの位あるのですか。

和泉 六会小は 1,200 人くらい、辻堂小・鶴洋小が 1,100 人、明治小が 1,050 人くらいです。

黒川 児童数 1,000 人を超えるような学校がいくつもあるのは、最近では珍しいですね。

小池 日本一児童数の多い学校として六会小がテレビで紹介されたことがあります。その頃、六会には 1,250 名くらいの児童がいました。



藤沢市立六会小学校
児童数 1,282 名、36 学級



藤沢市立明治小学校
児童数 1,051 名、34 学級

黒川 児童数が減らなければ学校の統廃合問題も起こらず、従って職員定数もへらないわけだから、良かったですね。

和泉 ただ、人口微増といってもそれは市域の南の方で、北部は微減です。

小池 北の方には農地なども残っており、調整区域もありますからね。南の方ほど宅地化がすすんでいません。

和泉 市域の北の方は藤沢駅周辺に来るより、買い物は海老名に出た方が近いからね。だから藤沢の中心部にあまり来たことがない子どももいますよ。

やはり六会や湘南台周辺のような、鉄道の駅に近い便利な所に住宅が増えますね。

黒川 ところで、藤沢で教職に就いている人は、だいたいこの近くの出身なのですか。横浜では高度成長期に人口が膨張し、それにもなって学校数が増え、その教員を全国から集めたので地元で地縁の無い人が多くなりました。

伊集院 藤沢でも、昔は他の土地から来た教員がたくさんいましたよ。



藤沢市立辻堂小学校

児童数 1,108 名、32 学級



藤沢駅近くの街並み

黒川 昔と言うといつ頃のことですか。

伊集院 ざっと 30~40 年くらい前の高度成長期です。学校数が増えて教員が足りず、全国から集めました。いわゆる団塊の世代です。いろいろな人がいたが中には個性の強い人も居て、苦労しました。

黒川 では、その頃には横浜と同じような現象があったのですね。やっぱり地元出身の人が良いのは、そういう人は地元で愛着がありますからね。

伊集院 そうです。だから地元で縁のある人が職場に来ると安心しました。

黒川 話は変わりますが、和泉さんは支部長になられてから三年目ですか。

和泉 三年目です。私の前は小池さんです。

小池 私の前は森さんでした。

黒川 ずっと OBの方が支部長をなさっていたのですか。

小池 もっと以前には現職の校長がやっていました。OBが支部長をやるようになったのは、伊集院先生の時からです。

伊集院 私は退職したのは平成 3 年で、支部長をやったのは平成 15,16 年度ですから、OBとして支部長を務めたのです。

小池 現職の校長は忙しいので OB で、となったのです。

黒川 その前は現職の方が支部長だったのですか。

小池 そうです。そういう時代がありました。

黒川 支部長を現職がやるか OB がやるかは、今の友松会の体制をみても支部によって違いがあり、どちらにしても一長一短があります。ただ現実の問題として会員の校長が減って OB が支部長にならざるを得ないという事情はあるでしょうね。

伊集院 藤沢の支部長が現職から **OB** になったのは多分そういう事情もあるのでしょうか。

和 泉 先生が支部長になられた頃の話をお伺いしますか。

伊集院 福室さんから「頼むよ」と言われてなったのです。

小 池 先輩達が集まって、では **OB** でやろうとなり伊集院先生が支部長になられた。福室先生が「今度は伊集院さんだから、大丈夫だよ」と言われたのを覚えています。

伊集院 私が引き受けた時には支部の組織はガタガタになっていました。総会を開いても数人しか集まらなかったのです。

和 泉 えーっ、本当ですか。

黒 川 今は総会にはもっと集まるのですか。



小田急・相鉄・横浜市営地下鉄の駅が集まる藤沢市湘南台の街並み



小田急江ノ島線、六会日大前駅

伊集院 今はだいたい 30 人前後です。

和 泉 このところ総会はだいたい 40 人くらいです。その後の懇親会が 30 人くらいです。

黒 川 伊集院先生が支部長になられた頃に、組織がそんなふうになってしまっていたのは何故なのでしょうか。

小 池 その頃の支部長は現職で忙しいので、「今年は支部総会を開けません」という感じでした。

伊集院 現職の人は忙しいからね。別に手抜きをした訳ではないのだろうが結果としてはそうってしまったのです。

小 池 それで福室さんが心配して、「会費を取っているのにこれでは困る。現職が大変なら先輩でやろう」となって伊集院さんをお願いして組織を立て直したのです。

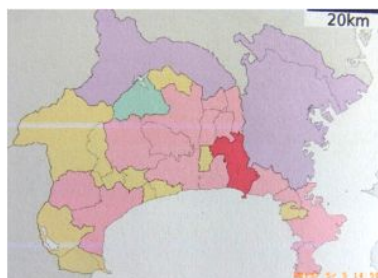
伊集院 私が支部長になった時に、支部長や支部の役員が何を考えているか、それを会員に伝える手立てを考えなければいけないと思い、「支部だより」を作ったのです。

その時にパソコンとプリンターを買って写真を入れ、カラーで印刷しました。パソコンは初めて使ったので、パソコンに詳しい人をお願いして教わりました。会誌「友松」は年に一度の発行ですが、「支部だより」はもう少しこまめに出そうと思いました。

黒 川 拝見するとカラー印刷で紙質も良く、なかなか立派な「支部だより」ですね。内容的にも支部総会や本部の総会の報告、会費の納入問題など本部や支部の活動の報告と問題点の指摘など、バランスよく纏められています。

小 池 今でも支部だよりは出していますが、こんなに立派なものでなくもう少し簡単です。

伊集院 私は凝り性なので、どうせ出すならカラーでと思ったのです。今はもうパソコン



神奈川県下での、藤沢市の位置



藤沢周辺の市と町

のやり方も忘れてしまいましたかね。

黒川 これでは拝見しますと平成15年、県友松会の伊従会長の時に、藤沢で友松会の総会をやったのですね。

伊集院 そうです。初めて藤沢で友松会の総会をやったのですが、これも組織固めの手段の一つと思って受けました。こういうイベントは一人では出来ないから、支部の皆さんに集まって頂いて、総会を成功させる為に頑張ろうと盛り上げたのです。

小池 伊集院さんが藤沢支部の組織を立て直して下さったので、その頃から会費の納入率も上がって、それ以来ずっと安定しています。

黒川 藤沢支部で支部長をOBがやるようになった事情や、伊集院先生の御苦勞は良く分かりました。ところで現在の支部長の和泉さんもOBですが、校内会員のいる現場との連絡とか繋がりはどうしていますか。



藤沢支部 支部だより(H.16.11.1号)

和泉 私の場合は退職後の再任用で、週三日小学校に勤めています。だから勤めている学校の校長に必要な情報を聞くことが出来ます。

黒川 その校長さんは友松会なのですか。

和泉 そうではありませんが、昔同じ職場にいた後輩なので、必要なことはいろいろと聞くことが出来ます。

黒川 そういう特別な関係がある場合は良いですね。ただ退職した後で2~3年はそういう関係も持てるでしょうが、その後が問題ですね。

和泉 確かに退職してから時間が経つとそういう関係を持つことが難しくなりますね。ですから藤沢支部の場合、支部の役員をOBと現職と半々にして、両者が連絡を保てるようにしています。たとえば副支部長には小・中の現職の校長を充てています。ただ中学の会員が少ないので、どうしても中学の役員が少なくなります。いずれにしても、現場の情報を取れるような組織を作っておけば、なんとかなると思っています。

黒川 支部によっては、校内会員とOB、OBとOBを繋ぐ組織を作っている所もありますね。

和泉 藤沢でもいろいろな配布物や支部総会のお知らせなどを出来るだけ手渡しで配ろうとして、小池さんなどがそれに取り組みました。

小池 いや、それをまず始めたのは伊集院さんです。藤沢でもいろいろなものを配る組織が決まっていた。伊集院さんが退任した後に森さんが4年やって、その後で私がやる頃にそういう仕事をしてくれた人たちが、皆さん高齢になってしまった。藤沢でも昔は地区の委員を決めて会費の徴収や印刷物の配布などをやっていたが、会員の年齢が高くなって、そういう委員を決められなくなったのです。私が支部長だった時期が地区委員のような組織を決めて機能するぎりぎりの時だっ

たと思います。私の任期の後半から和泉さんの時代にかけて、いろいろな配布物を郵送するようになりました。



JR 藤沢駅周辺の風景

黒川 いろいろお伺いして、藤沢支部の活動の様子は良く分かりました。最後に後一つお聞きしたいのは須田直吉さんのことです。

以前に友松会のホームページに載せた須田さんとの「友松対談」をご覧になった方は御承知でしょうが、藤沢市在住の須田直吉さんは昭和17年に神奈川師範を卒業され海軍に従軍されました。無事に復員後、藤沢市の小学校に復職されて何年か勤務された後、家業の農家を継

ぐために退職されました。平成25年の友松会総会が相模原で行われた時に、90歳の寿詞を受けた方を代表して須田さんが挨拶をされました。それが動機となってホームページでの須田さんとの対談が実現したのです。ただ私が不思議に思ったのは、退職してから何十年も経つのに須田さんはどうして友松会の総会に出席したのか、ということでした。その辺りのことを今日はお尋ねしたいのですが。

小池 須田さんの名前はOBの会員名簿にずっと載っていました。だから支部総会の案内はいつも出していたのです。総会の出欠の返事には、「総会のみ出席」「懇親会のみ出席」「総会と懇親会と両方出席」「どちらも欠席」と四つ選択肢があるのですがある年の須田さんの返事は四つとも○が付いていたのです。そこで須田さんに電話をして、「本当はどれなのでしょう」と訊ねました。するとその時に須田さんが、「僕、出ても良いけれど知っている人は誰もいないでしょう?」と言われたのです。そこで、「村岡の小塚さんはいらしてますよ」と言い、「来年は90歳で卒寿なので、寿詞が来ますよ」と言ったら「来年は出る」と言うことだったのです。

和泉 支部の方から須田さんに対して、ずっと発信だけはしていたのですか。ということは須田さんはずっと会費を払っていたのですか。

小池 そうだと思います。そう言う経緯で須田さんとずっと繋がっていたのです。

和泉 その時点では、須田さんのお孫さんが藤沢で先生をしていると言うことは分からなかったのでしょうか？

黒川 えっ、お孫さんが先生をしているのですか。

小池 そうなのです。須田さんの娘さんが嫁いだ先で生まれた女の子が成長して先生になっているのです。最近になってそれが分かりました。とにかく須田さんは働き者で有名で、「あんなに良く働く人は居ない」と近所で評判です。いつも新しいことに取り組み、乳牛を始めたのも藤沢では須田さんが最初だそうです。

黒川 須田さんの話では、有機栽培のお米を藤沢の小学校の給食に提供していて、「おいしいので子どもたちが残さず食べる」と自慢していました。

小池 カルガモを使った有機栽培のお米ですね。

黒川 私も須田さんにそのお米を頂いて食べましたが、本当に美味しいです。

小池 とにかく須田さんのところでは土地を売ったりせず、家族全員親子三代で農業に取り組んでいて立派だと思います。

和 泉 お聞きになったように、藤沢支部が須田さんとこれまでずっとコンタクトをとっていた結果として、須田さんは相模原での平成 25 年度の総会で、寿詞を受けた人たちの代表として挨拶されました。その中でご自分の海軍時代の話をされ、それを聞いた弘報部の黒川さんが「友松対談」にその話を載せると言うことになったのです。更に平成 26 年度の藤沢支部の総会で、その「対談」に載った話を須田さんに講師としてもう一度語って頂きました。そう言う点で、須田さんにも良い思い出になったと思います。更に昨年須田さんの話を聞きにこられた神奈川師範女子部出身の早川千重子さんが、今年の支部総会でお話をしてくださることになっています。



須田牧場の 50 頭の乳牛と須田さん

黒 川 いや、いろいろなことを伺って藤沢支部のことが良く分かりました。特に最後にうかがった須田さんのことはとても参考になります。こういう貴重な体験を持っている先輩を大切にすることが必要だと思います。今後の友松会では例えば前回の「友松対談」でご紹介した川崎多摩支部長の新田さんのように、一度も教職に就かずに活躍する人もきっと増えて来ることでしょう。また教職に就いたとしてもいろいろな理由で公立学校でなく私立学校に就職する人や、1 月の「友松対談」でご紹介した東京友松会の宮崎雄二さんのように、神奈川県下以外の職場で頑張る人も多くなることでしょう。そういった人たちとどのように関わって行くのか、また関わらなければならないのかが、友松会の今後の大きな課題であろうと思います。そう言う点で、今日お聞きしたことはとても参考になり良かったと思います。ありがとうございました。これで本日の会は終わらせて頂きます。



カルガモを使ったコメの有機栽培

あとがき (H.27.5.18 弘報部 黒川)

今回の支部訪問でも、藤沢支部の三人の方と懇親を深めいろいろ伺うことが出来ました。その中で感じたことは、「それぞれの支部はそれぞれの悩みや問題をかかえ、頑張っている」ということです。このささやかな支部訪問の欄が、それぞれの悩みや問題を他の支部の人たちと共有する場になれば良いなと思います。



平成 27 年度の「支部訪問」は、本年度の友松会総会の後で 7 月頃に再開する予定です。「友松対談」については 6 月から、また始めようと思います。